

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日時 令和元年12月11日（水） 第5校時
対象 2年4組 36人
指導者 教諭 外園 舞美

1 単元 「欧米の進出と日本の開国」

2 社会科と学校教育目標とのつながり

知識及び技能	「社会的な見方・考え方」を働かせて、概念等に関する知識を習得するとともに、情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	社会に見られる課題の解決に向けて質問や対話により考察を深め、選択・判断する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとし、自国を愛し、他国や他国の文化を尊重しようとする態度を養う。

本題材において、「知識及び技能」では、地図や文献等の様々な資料を読み取りながら歴史的事象相互のつながりや推移を整理し、理解できるようにする。また、「思考力、判断力、表現力等」では、地図や文献等の資料の読み取りを通して理解した歴史的事象の相互のつながりや因果関係などを生徒相互で説明し合ったり、文章にまとめて表現したりできるようにする。そして、「学びに向かう力、人間性等」については、単元を貫く課題を設定し、その解決に向けて意欲的に追究したり、学びに必要な情報を積極的に集めたりできるようにする。そうすることで、学校教育目標に迫ることができると考えられる。

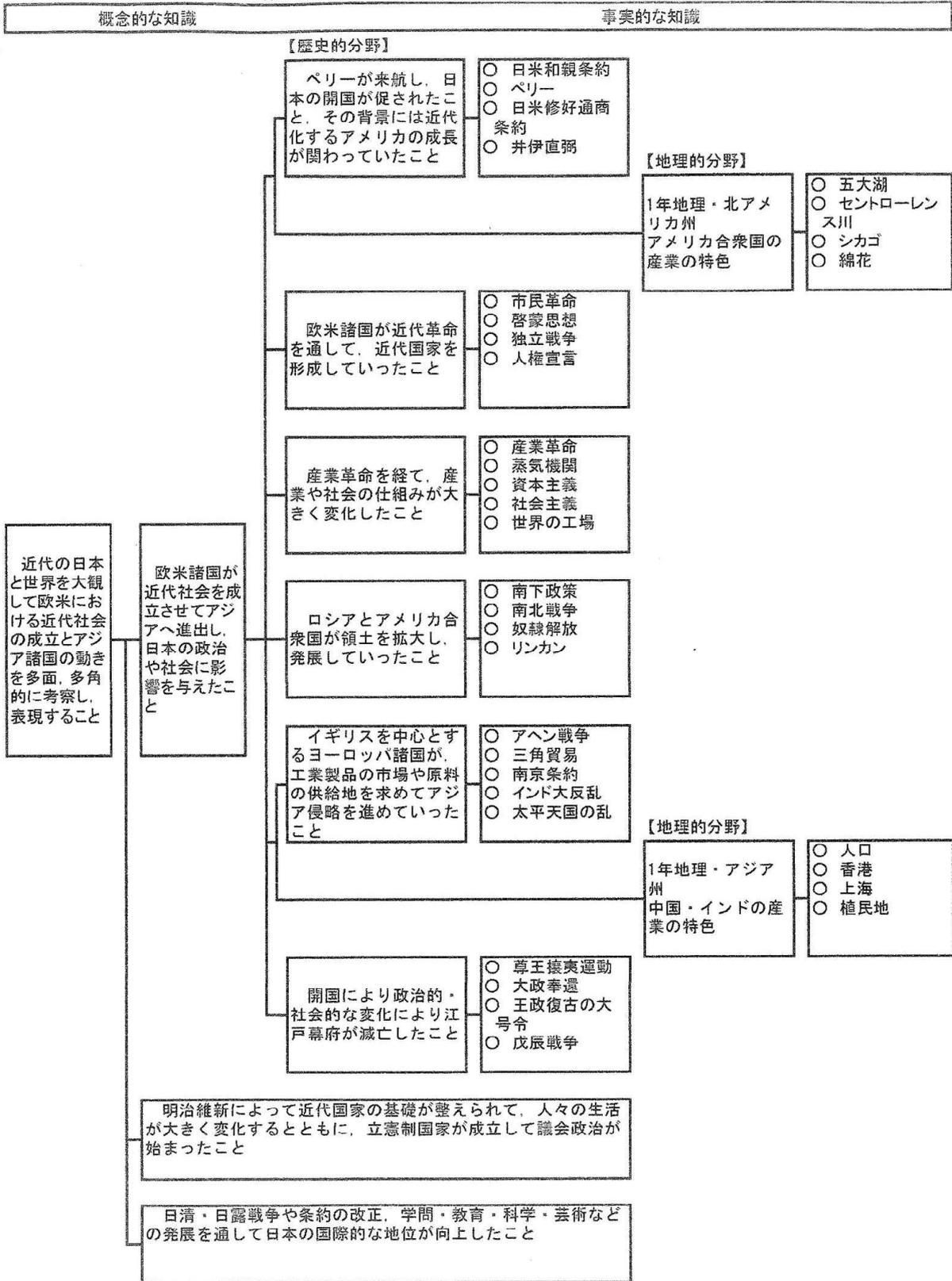
3 単元の考察

本単元は、歴史的分野の内容のC(1)「近代の日本と世界」の中項目（ア）において取り上げられている「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を受けて、構成したものである。この単元では、欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、近代の社会の変化の様子を考察し表現することを行い、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解することをねらいとしている。本単元で扱う18世紀～19世紀後半のヨーロッパでは、市民革命によって政治的な対立や社会の混乱、多くの犠牲が生じる中で、政治の体制が変化し、人権思想が広がり、近代民主政治への動きが生まれていった。また、経済面では、産業革命により生産の体制が大きく変化し、それに伴って資本主義経済の仕組みが整えられ、市場と原料供給地を求めて競ってアジアへ進出していくことになる。このような政治面と経済面の事象は相互に関連しながら大きな社会の変化を促した。平成29年告示の学習指導要領では、改定の要点の一つに「我が国の歴史に間接的な影響を与えた世界の歴史の扱いの一層の充実」を挙げており、本単元の学習内容である「欧米諸国が近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことを理解すること」が、その後の我が国の明治維新や近代国家の形成に大きな影響を及ぼしたことの理解につながり、日本の歴史と世界の歴史のつながりや学習の意義がより明確に意識できる単元であるといえる。

生徒は、「歴史の学習に関心がある」と答える生徒が30名（83%）おり、全体として関心が高く、学習意欲も高い。また、歴史を学ぶ意味について、「過去の良い点や過ちを学び、これからの社会に生かしていくため」25名（69%）、「これからの自分の生き方に生かしていくため」7名（19%）、「自分の知識を増やすため」6名（16%）と答えた。さらに、本単元で取り扱う幕末～明治にかけての学習については、小学校の歴史学習においてペリー等の人物に焦点を当てた学習をしているため、ペリー来航により日本が開国し、そのことが日本国内の政治や社会に大きな影響を与え、幕府が倒れるきっかけになったことは理解している。しかし、その背景として欧米諸国の近代化や日本・アジアへの接近の事情についての学習はしておらず、概念として理解するには至っていないことが分かった。

そこで、本単元の指導に当たっては、特に我が国の歴史に影響を与えた世界の歴史の扱いの一層の充実を図るため、日本史の背景として先に世界史を学ぶ従来の単元構成を、小学校で既に学習している開国という日本史の展開を学んでから、その背景を探って世界史を学ぶよう単元の再構成を行って学習させ、世界の歴史を学ぶことへの意欲を高めたい。そこで、単元を貫く学習課題を「なぜ日本は開国を迫られたか、なぜ他のアジア諸国と異なり欧米の支配を受けなかったのか」と設定し、社会的な見方・考え方を働かせ、追究したり解決したりする活動を取り入れた授業を展開していきたい。これらの活動を通して、欧米諸国の社会の変化が日本やアジアの近代化にも密接に関わっており、今後学習する近・現代の歴史や現在にもつながっていることに気付かせ、歴史学習の有用性が意識できるようにしていきたい。

4 単元の学習内容の構造化



5 単元の目標

- (1) 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを資料から読み取らせ、その経緯を理解させる。(知識及び技能)
- (2) 欧米諸国の日本を含むアジアへの進出の背景や影響について、歴史的事象を相互に関連付けながら多面的多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考力、判断力、表現力等)
- (3) 欧米諸国の近代化とアジアへの進出が日本に与えた影響について関心を高めさせ、意欲的に追究させる(学びに向かう力、人間性等)

6 単元の指導計画と評価の重点(全7時間) — 評価(授業中) — 評価(授業後)

学習課題と学習内容 (基本的な知識)	時間	評価規準			育成を図る資質・能力と具体的な活動場面			
		知識及び技能	思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等	対話力	質問力	集情報力	活動場面
開国と不平等条約 なぜアメリカは日本に開国を迫ったのか ○ペリー ○日米和親条約 ○日米修好通商条約	本時		日本開国の背景をアメリカの視点で資料を基に考察し、表現している。 【ワークシート】	単元を貫く課題に対して今後の学習の見通しをもって、意欲的に追究しようとする。 【観察】	○	○	○	アメリカが日本に開国を迫った理由を通商と工業発展の側面から考察し、表現する場面
近代革命の時代 欧米諸国は革命によってどのように発展していったか ○名誉革命 ○権利章典 ○合衆国憲法 ○フランス革命	2	市民革命を通して政治体制の変化・発展や人権思想の発達や広がりがあったことを理解している。 【ノート】		近代民主政治への動きと現代の政治とのつながりに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】	○	○	○	イギリスで市民革命が起こり、人権思想が広がった理由について説明する場面
産業革命とヨーロッパ 産業革命は欧米諸国にどのような影響を与えたか ○産業革命 ○蒸気機関 ○資本主義 ○社会主義	1	イギリスで産業革命が起こり、機械化によって交通・産業が著しく発達したことを理解している。 【ノート】	資本主義の成立が様々な労働問題や国際競争を引き起こしたことを資料を基に考察し、表現している。 【ワークシート】			○	○	産業革命が起こったことにより、社会や人々の生活がどのように変化したのか議論する場面
ロシアとアメリカの発展 なぜロシアやアメリカが急速に発展したか ○南下政策 ○南北戦争 ○奴隷解放 ○リンカン	1	南北戦争の経緯とアメリカ・ロシアの発展について理解している。 【ノート】	南北戦争の背景について資料を基に考察し、表現している。 【ワークシート】		○	○	○	南北戦争の原因やその後の国内の変化について読み取り、まとめる場面
ヨーロッパのアジア侵略 欧米諸国と中国、インドの関係はどのように変化していったか ○アヘン戦争 ○三角貿易 ○南京条約 ○太平天国の乱	1		欧米のアジア侵略の背景や経緯について、資料を基に考察し、表現している。 【ワークシート】	欧米のアジア侵略の背景や原因についてこれまでの学習事項や資料を基に意欲的に追究しようとしている。 【観察】	○	○	○	欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容について考察する場面
尊王攘夷と江戸幕府の滅亡 列強各国から日本を守るため、国内ではどのような動きがあったか ○尊王攘夷運動 ○安政の大獄 ○薩長同盟 ○大政奉還 ○王政復古 ○戊辰戦争	1	幕府滅亡までの経緯を理解し、まとめている。 【ノート】	幕府滅亡の経緯を、開国の影響と関連付けて考察し、説明している。 【ワークシート】	これまでの学習を振り返り、単元を貫く課題について、単元全体を振り返って自分の言葉でまとめたり説明したりしようとしている。 【自宅課題】	○	○	○	欧米諸国のアジア進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察する場面
全4時間における各評価観点の配当時数		4+①	5+①	4+①	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す。			

7 本時の実際 (1/7)

(1) 主 題 「開国と不平等条約」

(2) 本時の目標

- ア アメリカが日本に開国を迫った理由を資料をもとに考察・表現させる。
(思考力, 判断力, 表現力等)
- イ 単元を貫く課題に対して今後の学習の見通しをもって, 意欲的に追究させる。
(学びに向かう力, 人間性等)

(3) 主題の考察

本時は, 単元「欧米の進出と日本の開国」全7時間の1時間目に設定する。19世紀の日本では, ロシアだけでなくイギリスやアメリカ船も日本に近づくようになり, その対応をめぐって様々な事件が発生するようになる。特にアヘン戦争で清が敗れたことを知った幕府は, 異国船打払令をやめ, 寄港した外国船には燃料, 薪水を与える一方で, 軍事力の強化を目指すようになっていた。近代化を進める欧米諸国の中でも, 特にアメリカは1853年ペリーを日本に派遣し, 鎖国を続ける幕府に強く開国を迫った。日本はペリー来航ををきっかけに開国し, 不平等条約締結の影響により, 幕藩体制が動揺し, 江戸幕府の滅亡によって近世封建社会が崩壊していくことになる。

生徒は小学校第6学年の学習において, ペリー率いるアメリカ艦隊の来航が, 幕府の政治や江戸時代の人々の生活を大きく揺るがせた歴史的事象であったことを理解している。しかし, この当時の日本の政治や社会に影響を与えた欧米諸国がどのように近代社会を成立させ, アジアへ進出したのかまでは理解していないことが分かった。

そこで指導に当たっては, 学習課題を「なぜアメリカは日本に開国を迫ったのか」と設定し, 日本に開国を迫った理由をアメリカの視点で, 当時の時代背景やアメリカ国内の社会構造に焦点を当て, 多面的・多角的に考察させていきたい。その際, 単なる事実的な知識の獲得にとどまることのないよう, アメリカの捕鯨, 工業, 貿易に関する資料から読み取ったことを相互に関連付けて構造化させるようにする。そして, それぞれの事実的な知識を組み合わせ, 近代社会を成立させた欧米諸国が交通網を整え, 市場や原料供給地を求めてアジアへ進出していくという概念的な知識として獲得させたい。(図1) さらに, その他のヨーロッパ諸国はアメリカよりも先に近代社会を成立させて世界へ進出したこと, 日本を含むアジア全体がその影響を強く受けていたことを理解させ, 単元を貫く学習課題「日本はなぜ開国を迫られ, 他のアジア諸国と異なり欧米諸国の支配を受けなかったのか」に迫っていきたい。

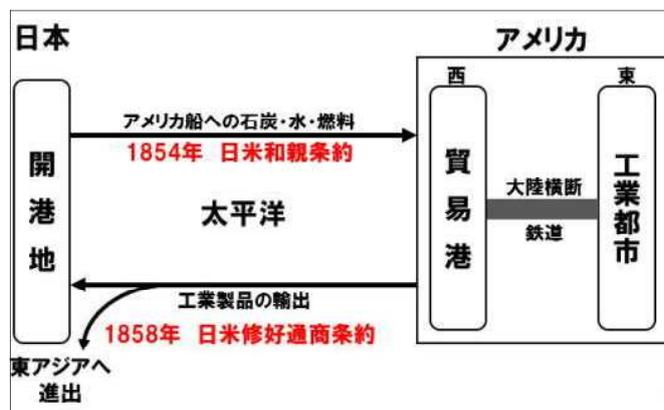


図1 アメリカのアジア進出

(4) 研究に関する指導の工夫

- 【手立て①】 [教科論 4-(4)] 社会的な見方・考え方の働きを可視化する工夫
- 【手立て②】 [教科論 4-(2)] 学びの文脈を意識した分野横断型の単元構成

(5) 本時の展開

主な発問や指示	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<p><問題把握></p> <p>○ 狂歌からどのようなことに気付くだろうか。</p>	5分	<p>1 日本の開国について小中学校で学んだことを思い出し、発表する。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p>	<p>1 ペリー来航から和親条約を結んだこと、アメリカが日本開国に力を注いだことを確認する。</p> <p>2 アメリカが日本に開国を迫る理由に興味を持たせ、学習課題を設定する。</p>	<p>資料</p> <p>「上喜撰」狂歌 ペリー横浜上陸 ペリーの航路</p>
<p>なぜアメリカは日本に開国を迫ったのだろうか。</p>				
<p><本質究明></p> <p>○ なぜアメリカは日本に開国を迫ったのだろうか。</p>	7分	<p>3 アメリカが日本に開国を迫った理由を大統領の国書から読み取り、発表する。</p>	<p>3 この当時のアメリカが漂流民の保護・通商・石炭を日本に求めたことを理解させる。</p>	<p>資料</p> <p>大統領の国書</p>
<p>○ アメリカが日本に開国を迫った理由を説明しよう。</p>	13分	<p>4 資料を基に個で開国の理由を考察し、ペアで意見を共有した後、班で意見をまとめ発表する。</p>	<p>4 資料分析をA・Bに分けてペアで分担させ、班内でそれぞれの分析内容を説明させる。それぞれ分析したことを関連付けて、アメリカの発展に関わる事象相互の関係を理解させる。【手立て①】</p>	<p>資料</p> <p>プリント1枚</p>
<p>⇩</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 アメリカが日本に開国を迫った理由を資料を基に考察し、表現している。</p>				
<p>○ なぜ函館は2つの条約の開港地として選ばれたのだろうか。</p>	5分	<p>5 和親条約と修好通商条約を確認し、開港地としての函館の重要性を正距方位図法を用いて考察する。</p>	<p>5 正距方位図法を用いて函館の位置を確認させ、函館がアメリカにとって捕鯨や貿易の重要な位置にあることに気づかせる。 【手立て②】</p>	<p>資料</p> <p>サンフランシスコ中心 正距方位図法</p>
<p>○ 欧米諸国とアジア・日本の関係はどのように変化したのだろうか。</p>	10分	<p>6 アメリカとの条約締結後、英・仏・露・蘭とも同様の条約を結んだことを教科書で確認し、当時の欧米諸国の動きを理解する。</p>	<p>6 欧米諸国が日本だけでなくアジア全体に影響を与えていたことを理解させる。</p>	<p>資料</p> <p>アヘン戦争絵図</p>
<p><洞 察></p> <p>○ なぜ日本は欧米諸国の支配を受けなかったのだろうか。</p>	10分	<p>7 本時の学習を振り返ってまとめを記述し、今後の学習を見通して新たな問いや資料を考え、発表する。</p>	<p>7 今後の学習の見通しを持たせ、今後の学習で解決していきたい新たな問いを発表させる。</p>	
<p>⇩</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 単元を貫く課題に対して今後の学習の見通しをもって、意欲的に追究しようとしている。</p>				

□ は評価場面, □ は授業中における評価観点 □ は授業後における評価観点

【資料1】アメリカ大統領の日本への国書

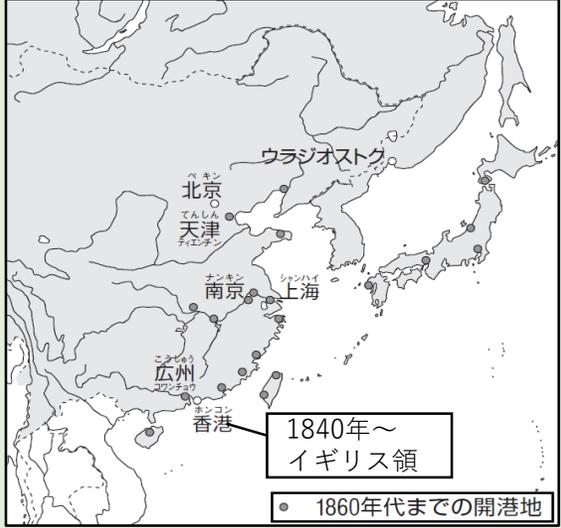
私はペリーを私の代理として、次のことを伝えるために派遣する。

- ① 私がペリーを派遣した目的は、アメリカと日本の友好と通商を提案したいからである。
- ② カリフォルニアから中国へ向かうアメリカ船は多く、日本の沿岸で捕鯨をしているアメリカ人も多い。日本の近くで船が難破したとき、他の船が助けに来るまではアメリカ人を大切に保護して欲しい。
- ③ 日本は食料や石炭が豊かであると聞く。アメリカ船が太平洋を横切るには多くの石炭が必要である。日本での石炭、食料、水の補給を許可して欲しい。
(「ペルリ提督日本遠征記」)

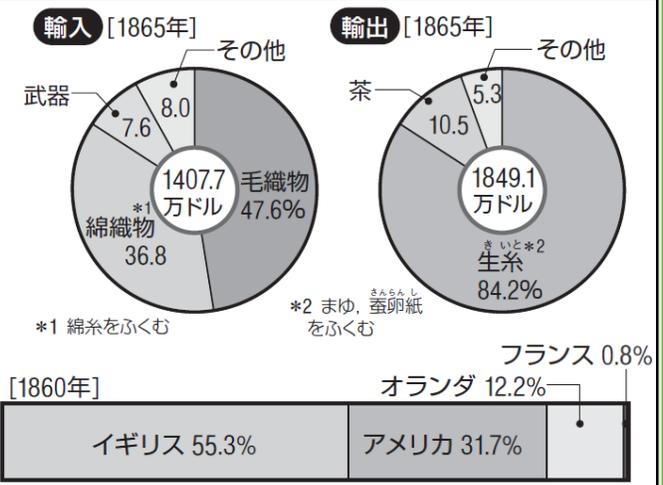
【資料2】19世紀中頃の交通

*ヨーロッパ～清 約6ヶ月 *ニューヨーク～リバプール(英) 約10日
*カリフォルニア(米)～上海(清) 約20日 ※蒸気船での日数計算

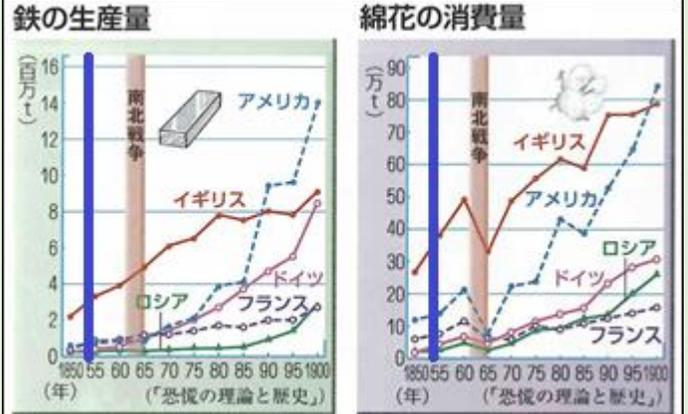
【資料A-①】19世紀の東アジア



【資料A-②】日本の輸出入品と貿易相手国



【資料A-③】各国の鉄の生産・綿花の消費量



【資料A-④】1875年頃の各国推定人口

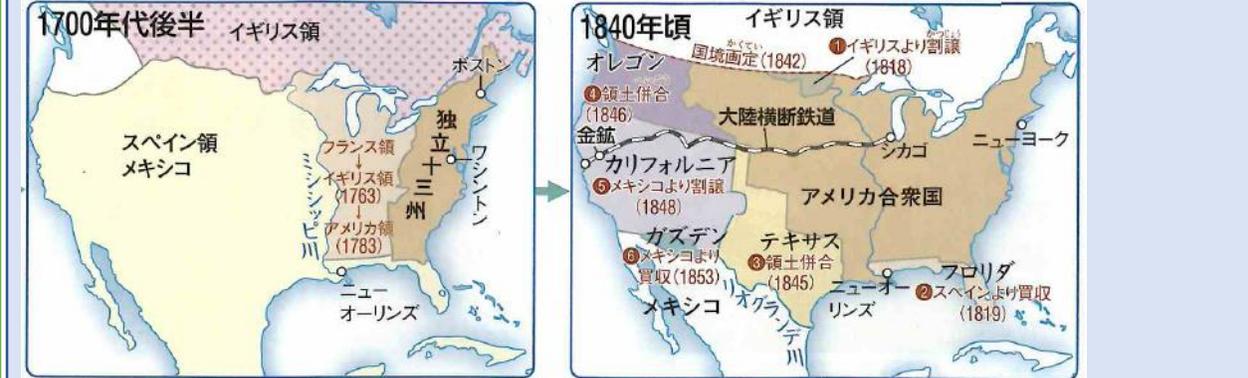
1875年頃の各国の推定人口

アメリカ	4,400万人
日本	3,600万人
中国	4億1,500万人
インド	2億5,500万人

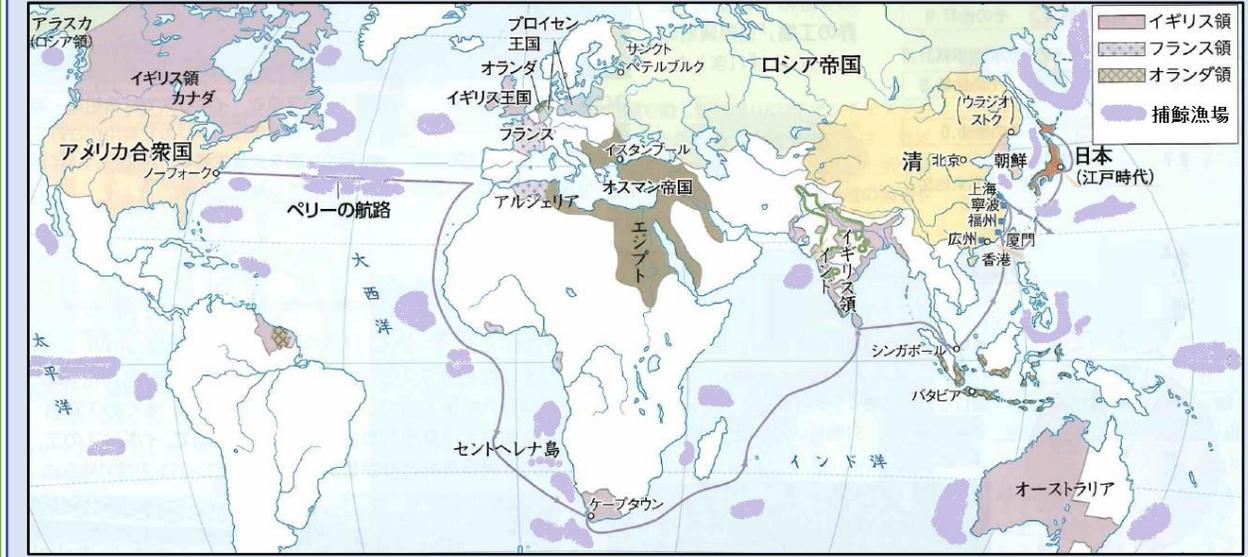
【資料B-①】捕鯨量の発展

その脂肪から取れる鯨油は、紡績用の油、その他各種機械類の潤滑油、良質のろうそくがつかられた。さらに骨はコルセットその他の材料となり、また頭蓋からとれるスパーム・オイルは軟膏や塗布剤の原料にもなった。(中略)やがて船内で鯨油を精製、貯蔵する専用船が登場し、その過程で多くの薪や水を必要とするようになった。曾村保信著「ペリーはなぜ日本に来たか」一部要約)

【資料B-②】18世紀～19世紀アメリカの変化



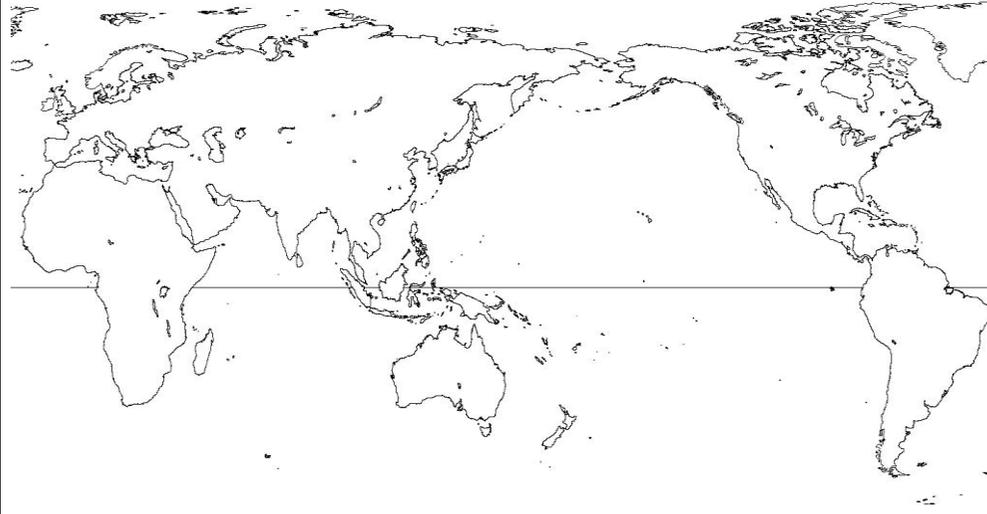
【資料B-③】19世紀の世界と捕鯨漁場



学習テーマ

2年 組 番 名前()

第2時【
市民革命
】



第1時【
日本の開国
】

第3時【
産業革命
】

第4時【
アメリカ・ロシア
】

第5時【
アジア諸国
】

第6時【
幕末の日本
】

歴史年表